

保育所における自己評価（総評）

八街市では、保育の質の向上を目的として、職員による自己評価を実施しています。日々の保育や園の取り組みについて振り返り、よりよい保育づくりにつなげていくためのものです。結果の概要を公表し、保育の状況を共有するとともに、今後の改善に活かしてまいります。

- ◆ 評価方法 ◆ 市立保育士 163名を対象に自己評価表を配布。各々で評価を行った後、結果をとりまとめる。
- ◆ 評価指標 ◆ ✓：良好。継続・維持。△：課題あり。意識の共有や仕組みの改善が必要。✕：早急な対策が必要。優先的な改善項目。

項目	内容	評価
① 保 育	(1) 保育目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	✓
	(2) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	✓
	(3) 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	✓
	(4) それぞれの子どもに関する必要な情報を共有しているか。	✓
	(5) 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができているか。	✓
	(6) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	✓
	(7) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	✓
	(8) 配慮に欠けた保育を見たり、感じたことはないか。	△
② 運 営	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。	△
	(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	✓
	(3) 係や仕事の分担、割り当ては適切か。	✓
	(4) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜むことなく施設の運営に関わっているか。	✓
	(5) 園内研修の計画・運営は適切か。	✓
	(6) 研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	✓
	(7) 研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	✓
	(8) 乳幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか。	✓
	(9) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	✓
③ 安 全 ・ 環 境 ・ 保 健	(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	✓
	(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	✓
	(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	✓
	(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関と連携を図っているか。	✓
	(5) 施設内外・設備の安全点検を計画的に作成・処理しているか。	✓
	(6) 遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	✓
	(7) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	✓
	(8) ヒヤリハットを共有し、事故防止に努めているか。	✓
	(9) 睡眠中・水遊び・食事中等の場面で重大事故が発生しやすいことを認識し事故防止に努めているか。	✓
	(10) 外部からの不審者侵入に対して、訓練を行い、マニュアルに沿った動きがとれるか。	✓
	(11) 日々の出欠状況や園児の健康観察の情報を共有し、家庭内の問題の対応を迅速に行っているか。	✓
	(12) 災害や感染症拡大時などに備え、連絡体制や引き渡し方法が確認されているか。	✓
④ と の 家 庭 や 地 域 の 連 携	(1) 園だより、クラスだより、ホームページ等で施設の情報を提供しているか。	✓
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の児童施設や小学校に対して周知しているか。	✓
	(3) 保護者や地域の人たちと連携しているか。	✓
	(4) 乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	△
	(5) 地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことが出来るような設定を行っているか。	✓

◆ 良かった点や改善点 ◆

保育目標に基づき、年齢ごとに工夫を凝らした保育、安全に配慮した保育を行うことができたと考えています。一方で、課題もありました。第一に、子どもが危険や怪我につながる行動をしたときのとっさの対応に配慮が欠けていた、という点（参考：①（８））です。つつい大きい声で怒ってしまうことが、子どもの人権に配慮した対応ではなかったかもしれない、その後のフォローが十分ではなかったかもしれない、という声があがりました。一時的に保育の負担がひとりの保育士に偏り余裕がなくなってしまうことが原因だと考え、普段より保育士同士がお互いに協力しやすい、困ったときに声をかけやすい環境作りをすることが話し合われました。また、子どもの人権擁護のためのチェックシートを利用し定期的に保育内容の振り返りを行っていく計画を立てました。第二に、能率的、合理的な運営組織になるためには、改善がまだまだ必要だという点（参考：②（１））です。保育・書類仕事が時間的にも人的にも上手く分担されていないことが、能率的ではない、合理的ではない、と感じる原因になっており、役割分担を見直すこと、参考になる研修を行うことを通して改善に努めていきます。また、ICT導入により業務の効率化が図られつつあり、これをさらに活かしていく予定です。第三に地域との連携が薄い、という点（参考④（４））です。コロナ禍で中止していた活動を再開できていないことが大きい原因です。来年度以降、再開の見通しや新たな活動を模索し、地域との連携を活発化していきたいです。